



避難所における多言語コミュニケーション： 外国人住民とともに取り組む安心できる場所づくり

国籍や言語、性別、年齢、障害や病気の有無などに関係なく、
「私たち」すべての住民が、避難所設営や運営などを含む、
避難所での多言語コミュニケーションのあり方について考えます。

2026年

10/18(日)
13:00～17:00

言語：
日本語・スペイン語・日本手話
(同時通訳付き)



参加費 無料

対象 外国人住民、自治体職員の方、通訳者、
日本語教師など非日本語話者と接点があり、
避難所での多言語によるコミュニケーションに関心のある方

会場 愛知県立大学長久手キャンパス
K棟2階 小ホール・B1多目的ホール
(アクセス)
東部丘陵線(リニモ)「愛・地球博記念公園」
駅下車徒歩 5 分

基調講演

「災害・危機対応における多言語コミュニケーションと通訳：
養成と実践における課題」

ルシア・ルイス・ロセンド 氏
(ジュネーブ大学)

講師紹介

ジュネーブ大学翻訳通訳学部准教授、通訳学科長。
2026年7月より翻訳通訳学部副学部長。専門は紛争地域
における通訳、緊急時における通訳および武力紛争に焦
点をあてた通訳史研究。スペイン出身、2026年度愛知
県立大学客員共同研究員。



事前参加申し込み要
PEATIX から
お申し込みください。
定員：先着80人



【お問い合わせ】

愛知県立大学学務課 TEL: 0561-76-8824
Email: community-renkei@bur.aichi-
pu.ac.jp



主催： 愛知県立大学大学院国際文化研究科コミュニティ通訳学コース
助成： 文部科学省人文・社会科学ネットワーク型大学院構築事業
実行委員： 東弘子、糸魚川美樹、グエン・タン・タム、小池康弘、高阪香津美、吉田理加
後援： 愛知県、公益財団法人名古屋国際センター（申請中）



プログラム



司会 吉田理加（愛知県立大学外国語学部准教授）

13:00-

開会のあいさつ 系魚川美樹（愛知県立大学副学長）

第1部 基調講演とパネリスト発表

13:10-15:10

基調講演

13:10-13:25

「災害・危機対応における多言語コミュニケーションと通訳：

養成と実践における課題」 ルシア・ルイス・ロセンド氏

（愛知県立大学客員共同研究員／ジュネーブ大学通訳翻訳学部准教授）

ラウンドテーブルパネリスト

- ・「やさしい日本語：安心できる避難所運営のために必要なこと」

東 弘子（愛知県立大学外国語学部教授）

- ・「愛知県の多文化防災の取り組み」

田渡 優氏（愛知県 県民文化局 社会活動推進課 多文化共生推進室 主査）

- ・「名古屋国際センターにおける多文化防災啓発活動

— 外国人住民と日本人住民が支え合う地域づくりに向けて —

浅野 順子氏（公益財団法人名古屋国際センター事業課 多文化共生担当主査）

- ・「聞こえないことへの気づきを促し、ろう者とのコミュニケーション力を育む活動：

豊橋での取り組み」 平松 靖一郎氏（愛知県手話通訳士協会／豊橋手話ネットワーク副代表）

- ・「私たちも支援の担い手に」

徳森 エリカ氏（多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 副代表）

- ・「外国人当事者の視点から考える多文化防災— 外国人防災リーダーズがつなぐ地域共

生 —」 マリア・アラウコ氏（三重県四日市市外国人防災リーダーズ代表）

- ・「避難所における外国人の私の経験」

大城 ロクサナ氏（一般社団法人ひょうごラテンコミュニティ代表）

- ・「多文化共生×防災×人材育成 —世界に誇る防災モデルを愛知から—」

池田 寿美子・矢野 和幸（愛知県立大学大学院生）

第2部

15:20-16:30

グループ・ディスカッション

第3部

16:30-16:55

まとめ

16:55

閉会のあいさつ 高阪 香津美（愛知県立大学外国語学部教授）